

平成26年(2014年)3月の結果 (二人以上の世帯)

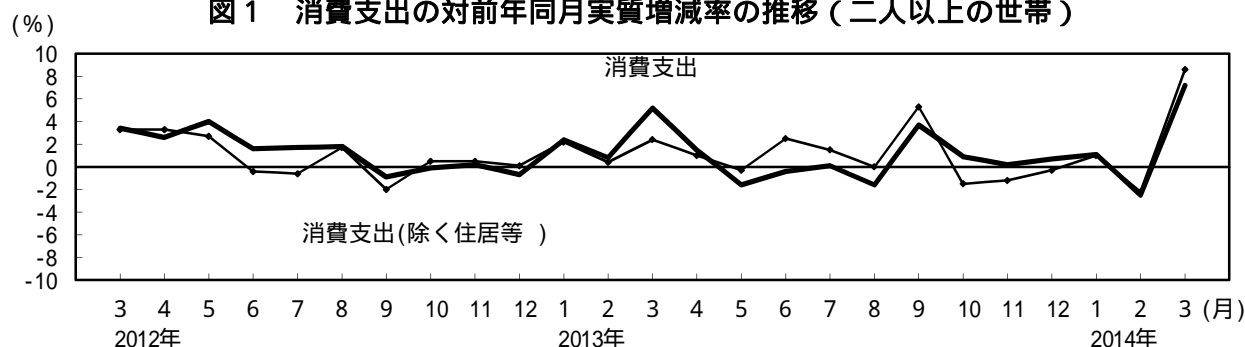
二人以上の世帯

・消費支出は、	1世帯当たり 345,443 円		
前年同月比	実質 7.2%の増加	前月比(季節調整値)	実質 10.8%の増加
	名目 9.3%の増加		
・消費支出(除く住居等)は、	1世帯当たり 288,699 円		
前年同月比	実質 8.6%の増加	前月比(季節調整値)	実質 9.9%の増加
	名目 10.8%の増加		
・勤労者世帯の実収入は、	1世帯当たり 438,145 円		
前年同月比	実質 3.3%の減少		
	名目 1.4%の減少		

：「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。また、実質化には消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。以下同じ。

1 消費支出の推移

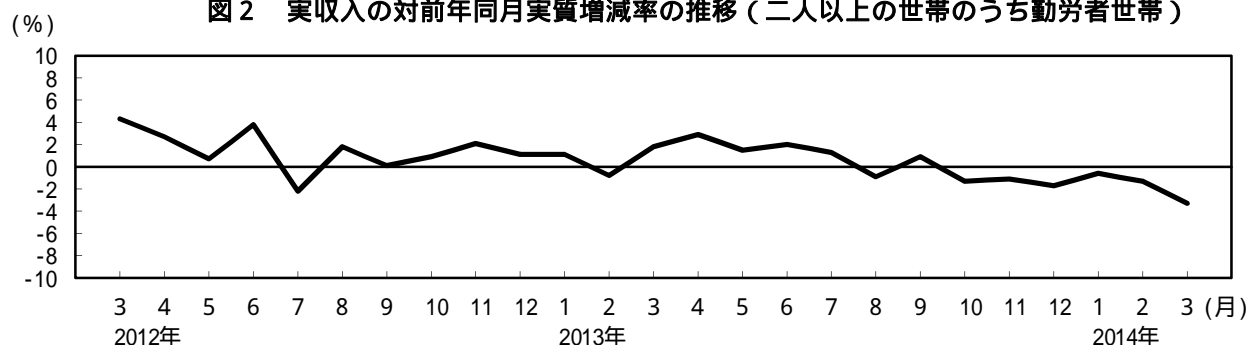
図1 消費支出の対前年同月実質増減率の推移(二人以上の世帯)



	2013年												2014年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			1月	2月	3月
消費支出	5.2	1.5	-1.6	-0.4	0.1	-1.6	3.7	0.9	0.2	0.7			1.1	-2.5	7.2
消費支出(除く住居等)	2.4	1.0	-0.3	2.5	1.5	0.0	5.3	-1.5	-1.2	-0.3			1.0	-2.2	8.6

2 勤労者世帯の収入の推移

図2 実収入の対前年同月実質増減率の推移(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



	2013年												2014年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			1月	2月	3月
実収入	1.8	2.9	1.5	2.0	1.3	-0.9	0.9	-1.3	-1.1	-1.7			-0.6	-1.3	-3.3
可処分所得	0.6	0.5	3.1	1.4	0.4	-1.4	-0.4	-1.4	-1.4	-2.1			-0.5	-1.3	-3.2
消費支出	7.6	1.1	1.4	0.9	-1.6	-0.5	3.7	-1.0	-1.6	-2.3			-0.2	-3.2	7.5
平均消費性向*	6.3	0.5	-1.7	-0.2	-1.4	0.8	3.5	0.3	-0.2	-0.1			0.3	-1.6	10.6

*：対前年同月ポイント差

3 消費支出とその内訳

表1 消費支出の内訳（2014年3月－二人以上の世帯）

項 目	金 額 (円)	対前年同月増減率(%)		実質増減 率 へ の 寄 与 度 (%)	摘 要	備 考
		名 目	実 質			
消 費 支 出	345,443	9.3	7.2	7.2		2 か月ぶりの実質増加
食 料	73,466	5.9	3.4	0.75	<増 加> 酒類, 油脂・調味料など	2 か月ぶりの実質増加
住 居	20,810	12.7	12.9	0.75	<増 加> 設備修繕・維持	7 か月連続の実質増加
光 熱 ・ 水 道	29,863	8.4	2.0	0.17	<増 加> 電気代, 他の光熱	6 か月ぶりの実質増加
家具・家事用品	16,841	85.4	82.5	2.37	<増 加> 家庭用耐久財, 家事用消耗品など	5 か月連続の実質増加
被服及び履物	14,955	12.7	12.3	0.51	<増 加> 洋服, 下着類など	2 か月ぶりの実質増加
保 健 医 療	15,284	10.7	11.1	0.48	<増 加> 保健医療用品・器具, 医薬品	5 か月連続の実質増加
交 通 ・ 通 信	56,171	14.2	12.8	2.00	<増 加> 自動車等関係費, 通信など	2 か月ぶりの実質増加
教 育	11,641	-12.1	-12.8	-0.54	<減 少> 補習教育, 授業料など	6 か月連続の実質減少
教 養 娛 楽	33,875	13.2	11.6	1.10	<増 加> 教養娯楽用耐久財, 教養娯楽サービスなど	2 か月ぶりの実質増加
その他の消費支出	72,537	0.4	(-1.6)	(-0.35)	<増 加> 諸雑費	4 か月ぶりの増加
消 費 支 出 (除く住居等※)	288,699	10.8	8.6	—		2 か月ぶりの実質増加

※：「住居」のほか，「自動車等購入」，「贈与金」，「仕送り金」を除いている。また，実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

注1 「摘要」欄は，消費支出の実質増減率への寄与度の大きい項目を掲載した。ただし，「その他の消費支出」については名目増減率の大きい項目を掲載した。

2 「その他の消費支出」の実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

消費支出の実質増減率に寄与した主な中分類項目及び品目

中 分 類

品 目

<増加項目>

実質寄与度

家庭用耐久財	[1.34]	……	電気冷蔵庫，エアコンディショナ
自動車等関係費	[1.26]	……	自動車購入，自動車等関連用品
諸雑費	[1.16]	……	婚礼関係費，葬儀関係費
設備修繕・維持	[0.77]	……	設備器具，修繕材料
教養娯楽用耐久財	[0.73]	……	パーソナルコンピュータ，楽器
保健医療用品・器具	[0.46]	……	眼鏡，コンタクトレンズ
家事用消耗品	[0.40]	……	洗濯用洗剤，ポリ袋・ラップ
通信	[0.37]	……	移動電話通信料，運送料
交通	[0.34]	……	鉄道通学定期代，鉄道通勤定期代
寝具類	[0.27]	……	ベッド，布団

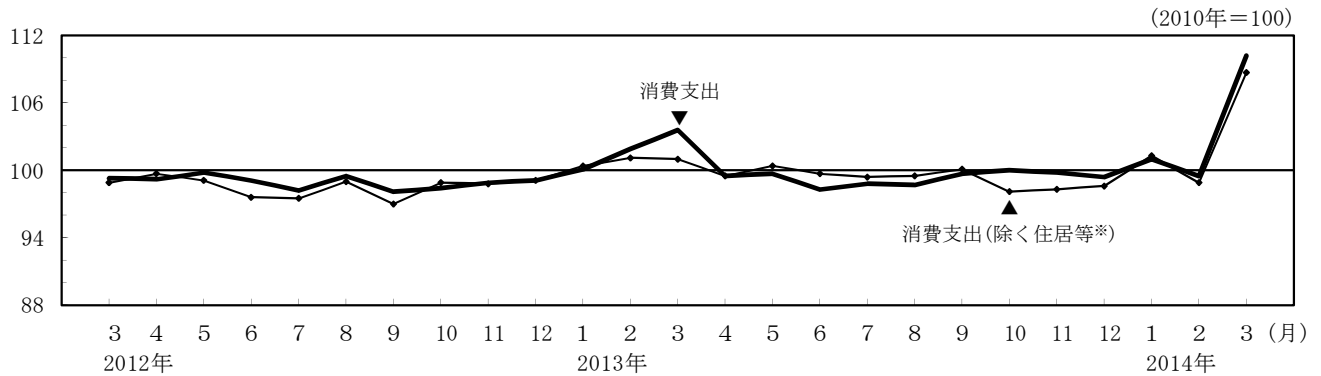
<減少項目>

交際費	[-0.51]	……	贈与金，つきあい費
-----	---------	----	-----------

注1 主な中分類項目を寄与度順に掲載した。

2 交際費の実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

図3 消費支出（季節調整済実質指数）の推移（二人以上の世帯）



	2013年											2014年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月
消費支出	103.6	99.5	99.7	98.3	98.8	98.7	99.7	100.0	99.8	99.4		101.0	99.5	110.2
対前月変化率(%)	1.7	-4.0	0.2	-1.4	0.5	-0.1	1.0	0.3	-0.2	-0.4		1.6	-1.5	10.8
消費支出(除く住居等※)	101.0	99.5	100.4	99.7	99.4	99.5	100.1	98.1	98.3	98.6		101.3	98.9	108.7
対前月変化率(%)	-0.1	-1.5	0.9	-0.7	-0.3	0.1	0.6	-2.0	0.2	0.3		2.7	-2.4	9.9

※：「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。また、実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

注1 季節調整の方法は、センサス局法(X-12-ARIMA)を用いた。

2 季節調整値は、毎年1月結果公表時に、過去に遡って改定している。

4 勤労者世帯の収支

表2 収支の内訳（2014年3月－二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

項目	金額 (円)	対前年同月増減率(%)		実質増減率への寄与度(%)	備考
		名目	実質		
実収入	438,145	-1.4	-3.3	-3.3	6か月連続の実質減少
世帯主収入	359,041	-1.4	-3.3	-2.71	10か月ぶりの実質減少
定期収入	346,563	-1.0	-2.9	-2.32	2か月連続の実質減少
配偶者の収入	53,380	0.9	-1.1	-0.13	8か月連続の実質減少
他の世帯員収入	7,380	-27.2	-28.6	-0.65	5か月連続の実質減少
非消費支出	79,463	-2.0	—	—	10か月ぶりの減少
可処分所得	358,682	-1.3	-3.2	—	8か月連続の実質減少
消費支出	384,680	9.6	7.5	—	6か月ぶりの実質増加
平均消費性向(%)	107.2	(前年同月) (ポイント差) 96.6 10.6		—	季節調整値でみると、85.1%で、前月に比べ、9.2ポイントの上昇となった。

注1 「非消費支出」とは、税金や社会保険料など、世帯の自由にならない支出である。

「可処分所得」とは、実収入から非消費支出を差し引いた額で、いわゆる手取り収入のことである。

「平均消費性向」とは、可処分所得に対する消費支出の割合である。

2 実収入には、勤め先収入(世帯主収入、配偶者の収入及び他の世帯員収入)のほか、事業・内職収入や社会保障給付などが含まれる。